

|         |   |                  |
|---------|---|------------------|
| 支援センター名 | 大牟田市ボランティア活動・体験活動サポートセンター                       |                  |
| 所在地     | 〒836-0862<br>福岡県大牟田市原山町 13 番地-3<br>(大牟田市中央公民館内) |                  |
| 連絡先     | Tel 0944-53-1502                                | Fax 0944-59-0614 |

## 事業の概要とポイント

大牟田市中央公民館では、青少年の体験活動等の指導を通じて学習成果の発表の場の確保・活用を図り、活力ある地域社会を実現することを目的に、公民館ボランティア登録・派遣事業を平成 12 年度から実施している。

本市では、ボランティア活動・体験活動支援センター事業の開始と同時に「大牟田市ボランティア活動・体験活動サポートセンター」を中央公民館内に設置し、コーディネーターを中心に、引き続きボランティア登録・派遣事業に取り組んでいる。

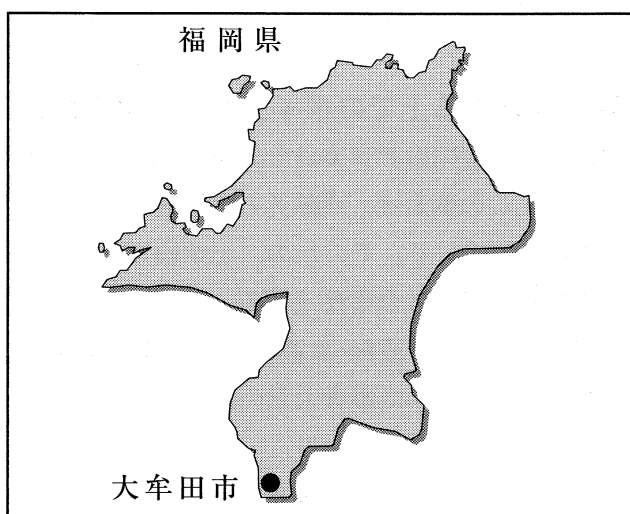
本事業は、公民館利用者・サークルを中心にボランティア登録希望者を募り、学校等の要請に応じ、登録者を派遣している。派遣に要する費用は不要で、ボランティアに対しても謝礼金・交通費等を一切支出していないことが特徴である。

平成 14 年上半期の実績は、派遣依頼件数 41 件、受講者数 1,452 人、ボランティア活動回数 108 回、ボランティア派遣人数 406 人となっている。

## 地域の現況・特色

活動対象地域の大牟田市の人口は 139,000 人である。

大牟田市は、福岡県の最南部のまちで豊かな自然と海産物の宝庫である有明海に面し、明治以降、石炭と石炭関連化学コンビナートの興隆とともに中部有明地方における母都市として発展し、わが国の産業・経済の発展に大きく貢献してきた。しかし、昭和 30 年代以降、石炭から石油へのエネルギー革命をはじめとした産業構造の激しい変化や平成 9 年の三池炭鉱の閉山などにより、地域社会経済は厳しい状況下にある。



このような中で、魅力と活力にあふれ、ゆとりと豊かさの実感できる地域社会を築いていくため、「石炭のまち」から「九州をつなぐ多機能都市・大牟田」を目指し、21 世紀の新しい産業で

ある環境・リサイクル産業の形成、三池港や有明海沿岸道路をはじめとした交通ネットワークの整備促進による都市構造の改革がはじまっている。

平成 13 年度からは「子育て支援プラン 21」を策定し、体系的に子どもの主体的な育ちを支援する施策を展開している。

### 企画から活動までの経緯

- ・先進地の視察などを行いながら事業の企画を行った。
- ・事業説明会などを開催し、ボランティア登録を呼びかけた。
- ・校長会等で事業の紹介を行い、活用をお願いした。
- ・学校や PTA、子育てサークル等に登録者名簿を配布し、活用を呼びかけた。
- ・ボランティア研修会等を開催し、ボランティアの資質の向上に努めた。

### 事例の展開内容（特色など）

ボランティアを受入れる側である学校に対しては、①校長会等を通じて、開かれた学校づくりのために積極的なボランティアの活用をお願いする。②コーディネーターが積極的に学校を訪問して人間関係をつくり、ボランティアの活用について理解を求める。③児童等への紹介にあたっては、ボランティア活動としての指導であることを強調して紹介してもらうこと等を念頭においてコーディネートしている。

また、ボランティアに対しては、①研修会等を通じて指導者としての心構えや子どもたちとのふれあいを大切にする態度を養う。②派遣活動の効果や学校等の感謝の気持ちを把握し、ボランティアに伝える努力をする。③指導に不慣れなボランティアは慣れたボランティアと組み合わせ、独り立ちへの配慮をする。④健康上の問題に配慮し「やってよかった。楽しかった。また役立ちたい。」と感じさせ、次の活動への意欲を培うことを念頭にコーディネートしている。

### 企画・活動する上でのポイント・留意点など

本市では、福岡県教育委員会の委嘱を受け「ふくおか高齢者大学」に平成 10 年度から取り組んでいる。この事業は、高齢者の学習機会を充実させるとともに高齢者の社会参加の促進を目的として行われている。そのため、小学校等との交流や現代子ども事情などをプログラムに取り入れ、講座終了後の社会参加を視野に入れながら実施されてきた。ふくおか高齢者大学の実施は、公民館ボランティア登録・派遣事業の円滑な開始にあたってとても大きな役割を果たしてきた。

しかし、ふくおか高齢者大学の修了生のみではボランティア登録者が不足するので、公民館利用者及びサークルに呼びかけ、一定のボランティア登録者を確保した。

また、学校等を中心に本事業の活用を呼びかけたが、学校だけを対象とするのではなく、自主的なサークル活動や老人施設からの訪問等の依頼についても対応してきたために、本事業の広がりができあがったと感じている。

## 評 価

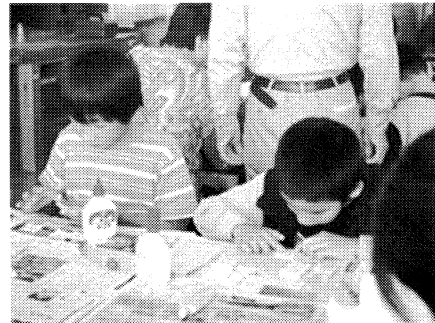
平成 12 年度から行っている本事業であるが、年を追うごとに派遣回数等も増え軌道に乗ったところである。学校はもちろんのこと、幼稚園、保育園、老人施設、子育てサークルなど、いろいろなところにボランティア活用への理解が広がってきて、活動回数も大きく伸びている。ボランティアの皆さんからは「行ってよかった」「子どもたちとのふれあいがうれしかった」など前向きな感想を多数いただいた。

今後の課題としては、学校教材の分析を行い、有効なボランティア活用の在り方を検討することと、どうしても派遣分野に偏りが見られるので、偏りの少ない派遣方法の検討を行うこと、新たなボランティア発掘とボランティア同士がお互いの特技を教えあう学習会を定着させることなどが挙げられる。

## 【活動風景】

☆きじ馬サークル 10月25日(金)

上官小学校4年生親子学習会



『うーんちょっとむずかしいけど紙のむきに注意して』

パタパタ・ブンブンゴマなど昔のおもちゃ作りの指導に、「きじ馬サークル」のみなさんに行っていただきました。大人は、なつかしさを感じつつ、子どもは自分で作ったおもちゃを手に遊びながら、なんでこうなるの??楽しかった。

☆劇団あいうえお 5月29日(水)

大牟田保育士会勉強会



『影絵も手袋のパフォーマンスも楽しかった。子どもたちに、保育室にある人形を使って演じてみせると、きっと喜んでくれるだろうな』

☆リフレスおおむた陶芸愛好会 10月15日(火)

倉永小学校3年生親子学習会



『久しぶりに親子で一緒に、一つのもの  
を作りあげ楽しかった。焼き上がりが楽  
しみです』